

令和2年度

第14回

島熊山能面祭 図録



豊中市長 賞「景清」

| 関東 秀康 |



審査員特別 賞「一角仙人」

| 松尾 芳樹 |

主催 島熊山能面祭実行委員会
後援 豊中市
協力 豊中不動尊

伝統芸能
と、
ともに、
とよなか

TOYONAKA

ごあいさつ

第14回島熊山能面祭にご応募いただきありがとうございました。

1月に募集要項を発表した矢先、新型コロナの感染が拡大し、ステイホームから緊急事態宣言まで深刻な事態が進みパンデミックに襲われるまでに至りました。

島熊山能面祭の中止も検討しましたが、何とか緊急事態宣言が解除され、審査員の先生方の協力も得られることになり、開催に踏み切ることが出来ました。

しかし、新型コロナの終息の目途がつかず、予断を許さない状況です。

推移を見守りながら、新しい生活様式に沿って感染予防策を講じて、

能面展示会や能楽師との交流会、島熊山薪能を開催します、

何かとご不便をおかけしますが、ご参加、ご協力よろしくお願いします。

今回の能面祭は新型コロナの影響か、応募数が102面となりました。

内訳は、島熊山薪能の「巻絹」で使用される、十寸髪(増髪)が16面、増女が9面の計25面と多く、その他小面や孫次郎など女面25面、平太や邯鄲男など男面24面、小癡見など鬼神面21、尉面など2面、狂言面5面でした。

中には、創作面が5面、修正再応募面4面が含まれていました。

今後も応募された優秀な能面を舞台で使いいただく機会を増やす努力を行います。

現在、能楽の開催の延期や中止が続いています、このままでは能楽そのものが危機にたたされると言っても過言ではありません。

能楽があつての能面です、私たち面打ちが様々な形で支援する時だと思います、ご協力よろしくお願いします。

大変な状況下で島熊山能面祭に快くご協力いただいた能楽師シテ方梅若 実先生・大槻 文蔵先生・

山本 博通先生・赤松 禎友先生・山崎 正道先生・武富 康之先生・大槻 裕一先生・狂言方小笠原 匡先生には厚くお礼申し上げます。

今回も豊中市より「豊中市文化芸術助成金」の交付を受けることが出来ました、

今後も豊中市での文化芸術活動を進めるとともに全国に能楽・能面を発信する活動を強めます。豊中市にお礼申し上げます。

なお、コメント及び審査員総評は審査員会における審査員の意見や感想を事務局がまとめたものです、

質問等は事務局までお問い合わせください。

島熊山能面祭実行委員会

審査員



観世流シテ方
梅若 実 先生【人間国宝】

観世流シテ方
大槻 文蔵 先生
【人間国宝】

観世流シテ方
大槻 裕一 先生



審査員総評

審査基準に基づく厳正な審査の結果、今回は大賞（梅若 実賞・大槻 文蔵賞）に該当する作品がなく、特別賞（豊中市長賞・審査員特別賞）2面、優秀賞2面、奨励賞9面の計13面が入賞されました。受賞された皆様おめでとうございます。

第一次審査推薦作品は38面でした。昨年の入賞作品が27面でしたので半数に減ったことになります。しかし、今回のレベルが落ちたのではなく、むしろ全体のレベルは上がっています。第一次審査推薦作品も良い作品がたくさんあり、奨励賞とは僅差で十分努力賞とか入選などに該当する作品で「舞台上で使えないことはない」レベルにまで達しています。技術的には向上し、ほんの少しの改善で十分舞台上で使える作品になるでしょう。

残念ながら今回は大賞（梅若 実賞・大槻 文蔵賞）の該当がありませんでした。審査基準は「舞台上で使えるか」ですが、大賞は「能楽師が使いたくなるか」「後世に残る名作に近づいているか」など高いレベルで判断します、そのレベルにはまだ到達していないのです。単に作品を比較して賞を多く出すのではなく、審査基準に照らして厳正に判断した結果であり、皆様にもっと努力してほしい、必ず出来るというメッセージでもあります。今回は過去数々の賞を受けられた方々に抜kindでた作品が少なかったのは残念です。

各作品の講評も良い作品を期待して、厳しいものになっています。決して悪いという意味ではありません。良いところはあえて触れてない作品評もあります。今回は「巻絹」を想定して十寸髪（増髪）が多く寄せられましたが、狂気が前面にでた面が多くありました。

十寸髪は女神の面で、増女より活動的で、舞い狂う恍惚感に浸る高貴な若い女性で品が必要です。単に狂気になってはだめです、どの面を打つ場合も何を表現するかはしっかりと意識して打っていただきたい。写真を見て如何に似せるかと模写した作品も多い、写そう写そうとする気持ちが模写になって個性を無くしています。主人公がどのような気持ちで能を舞うのかを考えないと良い作品はできません。今回創作面がいくつか出品されましたが、囚われずのびのび打たれた作品も見られました。特に名品を見てしまうと模写に走る傾向があります。

修正した再応募面がいくつかありました、いずれも修正により良くなっており、入賞された作品もありました。今後もぜひ手直しをして良い作品を目指していただきたいと思います。

今回の審査は大槻能楽堂の舞台をお借りして、舞台照明のもとで鏡板を背景に実際の演能環境で行うことで、幽玄や品、作品の出来を正確に見ることができたと思っています。

最後に、コロナ感染拡大による自粛が求められ、能楽が開催できない状況が続いています。終息が見通せない中で、能楽にとって非常に厳しい時期ですし、能を見る機会も少なくなっています、今こそ新しい環境での伝統芸能を守り普及する活動が求められています。皆さんも良い面を打っていただき一翼を担っていただければ幸いです。良い作品を期待しています。

（文責・事務局）



和泉流狂言方
小笠原 匡 先生



観世流シテ方 武富 康之 先生



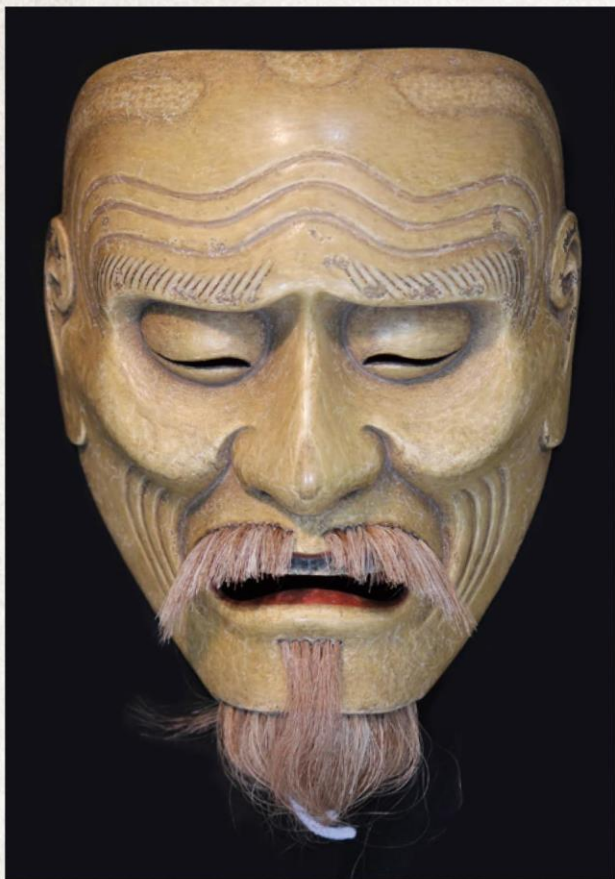
観世流シテ方 山崎 正道 先生



観世流シテ方 赤松 禎友 先生



観世流シテ方 山本 博通 先生



特別賞

❖ 豊中市長 賞

「景清」

関東 秀康(大阪府)

整って良くできているのですが、一段上に行くには景清の大切な要素である強さを表現してほしい。特に頬に力がない。口の表情も良いが少し大きい。頭部の白い傷は何の修理跡でしょうか、古面を写されたとしても必要でしょうか。頭が大きく重くなって違和感を感じます。皺の彫も浅く感じ表情が出ていません。

特別賞

❖ 審査員特別 賞

「一角仙人」

松尾 芳樹(大阪府)

良い面です。一角仙人は飄々とした中に冷めた感じが必要です、表面的な強さだけでは使い難い。修正されたようですが、未だ彩色が濃い、特に口ひげの毛書きが濃い。左右の頬骨に変化と目にもう少し力がほしい、角が細い。裏彫りにも注意してください。



優秀賞



「逆髪」

後藤 浩二(大分県)

良い面ですが、大和の逆髪とは違う、写そうとする気持ちを抑え、演者の気持ちを考えて打ってほしい。眼鼻は良いのですが全体のバランスが悪く、もう一つ強い表情が出ない、目が平面的でぼやけた感じがする。逆髪の美しさが無い、彩色は良い。

優秀賞



「泥眼(一)」

海老原 彰(鹿児島県)

表情は良い、泥眼としては寂しい感じがする。目が下を向きすぎです、目は(二)の方がよく、口はこの作品の方が良い。額と頬の彫り跡の線が目立ち美しさが無くなっています。能面は全て品が必要です。口の周りと目の下の力を改善すればさらに良くなるでしょう、彩色も良い。



奨励賞



「小癪見」

松尾 芳樹(大阪府)

使える面です。引き締まった小癪見で悪くはないが、もう一歩力強さ・凄さがない。頬の力や上口の締め、下あごの力(小振りのせいかな)のバランスを考えてください。彩色は良い、動きの激しい面の裏面はある程度凹凸があるほうが汗の流れが良い、口元に汗が溜まらないようにしてください。

奨励賞



「泥眼(二)」

海老原 彰(鹿児島県)

上口を凝り過ぎて品を無くしている、側面からはより強調されます。目の力があります、口のゆがみは良いのですが目のバランスが良くない。特徴がない無難な泥眼です。良い作品です。

奨励賞



「十六中將」

伊藤 幸男(千葉県)

良くできています。目は良いのですが、眼から下、特に口の問題あり口角が上がりすぎです。目の周りも赤色が入りすぎです、もう少し可愛らしさがほしいし、鼻が大きすぎます、惜しい作品です。



奨励賞



「龍女」
川上 堯由(愛知県)

目と口の彫が良い。彩色が赤すぎる感じがします、落ち着いた色がほしい。品がなくなっています。右側がもう少し強くて良いのでは、優しすぎるようです。

奨励賞



「泥黒髭」
中村 義人(岐阜県)

力もあり惜しい作品です、目が飛出ている感じで、目の方向が左右同じで、表情が出ていません。頬の彫や天地の眼などを研究されると良いでしょう。歯並びが悪い真ん中が下がり過ぎているようです。

奨励賞



「大鰐」
菅原 望元(滋賀県)

舞台で使えますが、強さが無い。特に頬の色が単純でメリハリがない、もう少し表情に強さ陰しさ力強さがほしい、重い、目の周りが黒すぎ表情が出ない。

奨励賞



「鼻瘤悪尉」
吉村 和佐子(大阪府)

良い作品です。悪尉らしく眉間や口角にもう少し強さがあればもっと良くなるでしょう。口の引き具合と頬の動きのバランスを取ってください。彩色は少し古色を入れ、キズも含めて強弱をつけることも必要です。悪尉はきれいにする必要はありません。重さも良いが、裏から若干前が見にくい。

奨励賞



「増女」
出口 久(長崎県)

増女らしい増で良い作品です。整っていますが、口に強さがあるともっと生き生きして良くなると思います。彩色も上手です。裏彫りの頬が厚すぎます、付けることを考え裏も丁寧に彫ってください。

奨励賞



「増女」
宮崎 美幸(京都府)

良い作品です、品も良く彫が丁寧です、少し平面的な感じがします、口に力がないのでぼやとした感じで、なんとなく普通になってしまって全体の力が無くなっています。彩色は良いと思います。羽衣や三輪に使えます。紐穴付近が薄すぎ割れが心配です。



推薦枠



「邯鄲男」
川井 郁司(兵庫県)

口は良いのですが、眉間があいまいで陰しさがなく、もっときりっとさせて邯鄲の特徴を表現してほしい、繊細さも欲しい、目が弱い、惜しい作品です。

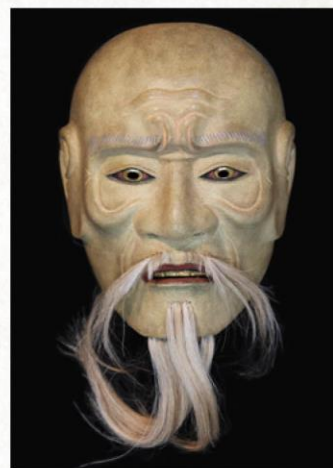
推薦枠



「孫次郎」
原田 ちよ子(愛知県)

舞台上で使えます、良い顔で女らしい面ですが、孫次郎の独特な線・雰囲気をもう一步追求してほしい、優しい孫次郎です。彩色は青白すぎて、黒さが余計目立つようです、黒い影のつけすぎか？技術的には彫も彩色も上手ですが、模写する気持ちが強すぎる感じがします。孫次郎は表情が難しい面です。

推薦枠



「利修」
原田 ちよ子(愛知県)

創作面でストーリーが不明で表現意図がつかめないが、彩色は僧侶・仙人的な雰囲気は出ている。彫は眉間が平面的で、目の表情が中途半端で訴えるものがない。耳の境目がなく、鼻などもきりとした締まりがないため全体がボートした感じを受ける。眉間の鋭さや品も欲しい、もう少し意志の強さと厳しさがいるのでは？型にとらわれずのびのびと打っているのが良い。

推薦枠



「十寸髪」
住村 太(福岡県)

良い作品です。品も良く彫も丁寧ですが、平面的な感じがします。頬に力がありません、鼻とのバランスを注意すればよくなるでしょう。無難な作品に終わっているのが残念です。

推薦枠



「邯鄲男」
住村 太(福岡県)

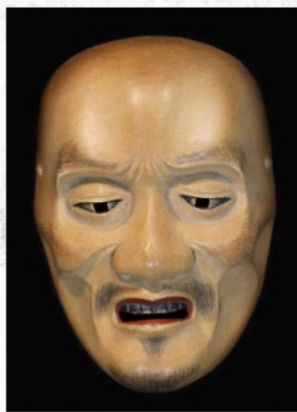
目は良いのですが、眉間の皺が弱く邯鄲の額の悩みの表情が出せていない、幅を少し詰めるなど工夫をしてほしい、優しすぎる感じがします。彫も彩色も良いので表情をさらに追及してください、惜しい作品です。



「増髪」

海老原 彰(鹿児島県)

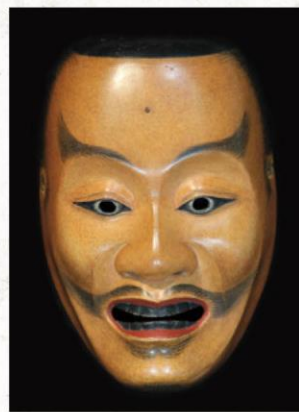
全体的に良く出来ているが、口に締まりがなく品に欠けます、笑っているようです。口角が円みがかって見えます。本面の裏を写し、大波のような模様を写されていますが、顔に当てにくく違和感を感じます。重いです。能のお道具として素直に彫って下さい。



「俊寛」

笹本 榮(兵庫県)

俊寛には寂しい俊寛と、まだまだ島を出ようとする俊寛があります、この面は口には力があるが目に力がないため表情がはっきりせず、落ち込み過ぎた俊寛になっている。目がこれなら口を下げるとかバランスをとってください。彩色も表情に合わせた色と丁寧さが必要です。少し厚い軽くしてください。目玉の彫が浅い感じもします。



「赤平太」

眞野 恵子(福岡県)

平太は勝ち武者なのに豪勇さ強さが無い。口が大きすぎ、目鼻は旨くいっているのに頬とのバランスがなく力がなくなっている。平面的な感じもします。彩色は黒く茶褐色過ぎます人間の色に近いほうがいいでしょう。彩色の工夫をされるともっと良い面になります。



「生成」

亀川 博道(兵庫県)

生成の表情は難しい。この表情の面はあるのですが、能面と生々しい顔との境目をどこ持ってゆかが問題です、舞台上に最初怒りをもって登場し、最後は怒りが治まってゆく表情がほしい。目の強さや額の白い部分の影や彩色の丁寧さがほしい、これほどの作品ができるのですから、細部の丁寧さがあれば良くなるのでしょう。



「真蛇」

亀川 博道(兵庫県)

作品としては良い、もう一歩です。真蛇にはもっと強さと険しさがほしい、骨格が蛇的な印象がなくスマートすぎて優しすぎます。彩色に変化があればもっと良くなるでしょう。赤すぎる印象があります。裏彫が厚く重く感じます。



「十寸髪」

田中 成治(愛知県)

目鼻口のバランスが悪く表情としてうっとうしい感じがします。十寸髪は狂女の前に気品のある美しい高貴な女性です、品が必要ですが足りない。作り方や彩色は悪くはないのですが、古色が強すぎる感じもします、どこかの古面を写されたのでしょうか。表情の工夫をしてください。



「若女」

鈴木 純一(神奈川県)

頑張っているのですが表情が出ていない。目がぼやけているのと、顔全体が下がっているため間延びしています、バランスを考えてください。彩色は少し黒く深みがない。口に美しさと品がほしい。



「萬媚」

松本 洋一(兵庫県)

可愛いですが、色が黒すぎ広がり無くしています。古色を付きすぎると色が浅くなります。口が広がり、鼻が歪んで下がっているため鼻下が狭く感じます。目元の墨が雑で、もっときれいに書けばよくなるでしょう、右頬のシミはいらぬ、全体の印象を悪くしています。



「若女」

松本 洋一(兵庫県)

色が黒すぎます、特に若女は美しさと品が大切です、年月が経った色と最初からの色では違うことを理解してほしい、黒すぎると表情が出ません。口は良いのですが、全体的なバランスが悪く、額から目にかけては深井のような印象を受けます。



「増髪」

白井 充夫(埼玉県)

良い作品ですが、口が良くない、目の力はあるので残念です。鼻のバランスも悪い。十寸髪は高貴な人で、狂女であるというより恍惚とした、品がある女性としてとらえてください。その意味でもう少し品がほしい、特に口に品がない。他は良いので残念です。



「孫次郎」

岩武 忠典(大分県)

良く打っていますが、何に使えるか考えます。目が離れすぎ、口とのバランスが悪いので孫次郎らしくない。刷毛目は使い方が難しい、ここまで入れてしまうと目の表情が悪くなって、下を向いているように見える。刷毛目の逆効果が見れているようです、どこまで刷毛目を出せばよいのか?どこまで写すかを考えてください。



「蟬丸」

岩武 忠典(大分県)

良くできています。色は良いのですが、もう一つ口に品がほしい。悩みがなく、目が上がりがすぎ衰れさもなく強すぎる。蟬丸とか弱法師はきりっとしてしまうと主人公と合わなくなります、哀愁がないとだめです。頬がべたっとした感じですか?前が見えないので裏彫に注意してください。



「十六中將」

藤井 欣也(滋賀県)

努力されて良い面になっています。表情として可愛いのですが、可憐な可愛さがなく中將に近くなっています。頬から顎が膨らみ過ぎている。もう少し強さも欲しい、古色が強すぎます、自然な彩色したほうが良いでしょう。



「雷」

麻生 良一(福岡県)

再応鼻面で前回より白が抑えられ良くなっています、頑張っておられます。額や目の強さは出てきました。目力が出てくると口の力が弱くなってみえます。目と口と鼻はバランスを取るようになってください。能面は荒面でも美しく品が必要です、細部の工作に力点を置き、丁寧さが美しさにつながると思います。裏が重いもう少し軽くしてください。



「老女小町」

大久保 和男(長野県)

彫は若干甘いが悪くない作品です。100歳の小町に見えず若く感じます。品格や幽玄さが足りないようです。彫は若干平面的で、骨がない、骨格の表現に注意を払ってください。細部でいえば鼻も口角も表情が出ていない研究してください。



「三光尉」

岩崎 拓治(兵庫県)

彫はしっかりしており、見た目は良いのですが、何かぼやけており、三光尉らしさがなく、口に違和感を感じる、個々が出過ぎで平面的で四角い顔になっている、口が奥にへこんでいるような感じでバランスが悪い。頬の左右の表情を変えようと変化が出てくる。彩色が少し単純。



「姥」

浅野 俊樹(愛知県)

綺麗な姥ですが、老人にしては若くつやつやして色気があり過ぎます。口角は良く彫れているのですが口元を引き締めないと笑ってしまいます。彩色は赤すぎ青色がほしい、骨格が老人らしくなく彫はピシッとした線がほしい。骨の内側を濃くする彩色したり、骨の部分につやを出すなど彩色にもメリハリがほしい。裏彫りが厚く重い。



「十寸髪」

栗原 富美子(茨城県)

写し切っていません、口に上品さがなく、口角が上がりがすぎています。目の角度が下を向いてしまっているため目が通りません。十寸髪は狂女の前に気品のある美しい高貴な女性です、品が必要です、眉間の皺や窪みと目の関係、笑窪と口の関係などを考えてください。十寸髪の表情を追求してください。



「髭景清」

日高 正雄(滋賀県)

技術的には良いのですが、景清の思いが表現されていません。全体的に平面的で左右が対称になっているため表情が出ませんし変化しません。頬の下に力がなく口と目のバランスも悪く弱い。もっと彫り込んでメリハリをつけると良いでしょう。色は良い。



「増髪」

藤田 仁美(京都府)

輪郭的には良いのですが、彩色が少し黒く邪魔をしているように感じます、もう少し丁寧な彩色がほしい。増髪は増女と同じ性格で舞い狂う恍惚感に浸るの若い女神です、影や線は良いのですが口と目がきつ、髪の毛が強すぎて呪いがかかっている女のように感じます、表情を見直してください。



「小面」

田中 徳平(福岡県)

小面で創作面とされていますが、特に何か表現したいことがあったのでしょうか。小面としては全体的に良いと思います。ただ口と品がなく可愛らしさが失われています。彩色は丁寧で良いのですが、古色が入りすぎ、顔が膨らんで見えます、青がきついのでしょうか。どの曲に使用しますか？



「姥」

大賀 信義(広島県)

悪くはなく良い面ですが、少し黒すぎる感じがする、舞台に出るとどのように映るか。左右非対称で作られているのは良いのですが、頬の左右や口とのバランスがここまで崩れると気になります。



「増髪」

大野 明子(愛知県)

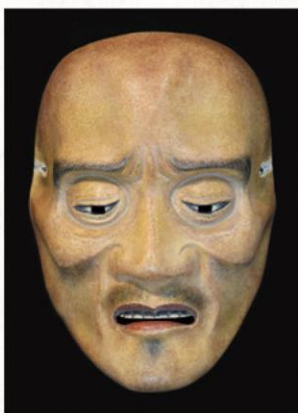
良い作品ですが、全体的に下に広がりすぎて頬を引き締める必要があります、各パーツは写しているのですが位置が悪くバランスを欠いています。頭のへこみも含め左右の変化をつけたほうが表情が豊かになるでしょう。口角も少し開けたほうが良いと思います。彩色は良いのですが鼻筋の色が目立ちます。



「孫次郎」

吉川 永司(神奈川県)

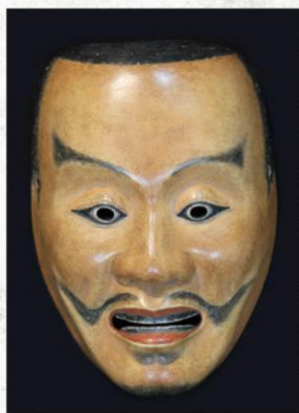
良く打っているのですが、古色が強く黒すぎ汚くなっており将来的には使えなくなります、古面を忠実に写そうとしたのでしょうか、何を写すか考えてください。口のバランスが悪いのは下唇に問題があるようです。美しさが無いようです。



「俊寛」

小嶋 正(滋賀県)

全体的な表情は良いのですが、口元は締まりがなく陰しさが無い、目が生きていない、もっと強さがほしい。骨格表現を工夫すれば良いでしょう。色は良く入っており深みがあるが、近くから見ると雑で荒い感じがする。



「赤平太」

田川 聞悟(大阪府)

平太の特徴が掴まれており、彫が丁寧ですし、裏の当りも良い、使える良い面ですが、彩色が問題です。黒すぎて日焼けしすぎています、舞台の照明でも少し黒く感じる、明るめのほうが良く、丁寧さとメリハリがほしい。口元の締まりと強さがあればさらに良くなるでしょう。



「黒髭」

里田 敏一(滋賀県)

使えるが、下を向きすぎて目線が効かない。口の開き具合と頬のバランスが悪い、舌と口角の区別がない。彩色は黒すぎて髭の色が薄い、黒髭という名にふさわしくなくなっている。少し厚い重い、裏彫りに注意してください。



「大癡見」

山縣 徹(大阪府)

口の締まりが優しく弱い、口角の深さと、頬が連動せず単なるふくらみで終わって動きがない、鼻筋も細く力強さがなくなっている。眉間の皺にも緊張感がない。全体的に厳しい線がほしい。大癡見は内側に滑稽味も必要です。



「増女」

山縣 徹(大阪府)

良い面で綺麗な顔をしている。目の影は良いのですが、下を向きすぎているので前に出る力がなく舞台上でいずらくなります。彩色が黒い感じがします。口元の締まりもすこし弱く、上唇が薄い感じがし、笑っているような感じを受けます。



「十寸髪」

出口 久(長崎県)

良い面ですが鼻・口が全体的に弱く何に使えるか迷うところです。目も伏せがちで弱く表情が変化しません。増髪は神の面で舞い狂う恍惚感に浸る品のある高貴な女性です。狂うだけでなく品が必要です。彩色も良いので惜しい作品です。裏の頬が厚すぎて、あてが付けられません改善してください。



「小癡見」

上田 一雄(京都府)

彩色は良いのですが、口元の締まりや強さがありません。下唇を小さくして絞れば、頬や顎の力が強くなり、鬼神らしい緊迫感が出るでしょう。惜しい作品です。



「増女」

伊庭 貞一(滋賀県)

良い顔をしています。彩色は良いが少し濃い感じもします。影は各パーツは良くできていますが目・鼻・口のバランスを欠いています。特に目が左右とも下を向いて表情が出なくなっています。上唇の影や小鼻横の影など、ほんの少しのことで表情が変わります、惜しい作品です。こちらが羽衣に向いている。



「増女」

伊庭 貞一(滋賀県)

泣き増のような感じですが、目が大きすぎず、目が通っていない。口は下がり過ぎてバランスを崩し品を無くし、深井に近くなっています。鼻柱が細いのも気になります。表情としては三輪・班女に近いようです。



「武悪」

村瀬 隆一(大阪府)

良いのですが、もう少し上瞼が厚ければ表情が出てさらに良くなると思います。口が貧相です、口角をさげるのではなく上げたほうが良いでしょう。彩色は良い。武悪は笑うがごとく泣くがごとく怒るがごとくの表情が必要で、動かしてこの表情を出すよう工夫してください。

2020 SHIMAKUMAYAMA
Special Exhibition





「邯鄲男」
山本 悦郎(三重県)



「野干」
五郎丸 諭(福岡県)



「邯鄲男」
竹之内 敏弘(静岡県)



「小飛出」
竹之内 敏弘(静岡県)



「平太」
池田 哲男(埼玉県)



「十寸髪」
笹本 榮(兵庫県)



「増髪」
亀川 博道(兵庫県)



「一角仙人」
亀川 博道(兵庫県)



「黒式尉」
舟越 唯雄(山形県)



「姥」
島田 紀明(千葉県)



「重荷悪尉」
立錦 祥元(広島県)



「若い女」
田中 成治(愛知県)



「中将」
水越 保治(大阪府)



「小面」
山本 毅(神奈川県)



「若女」
菅沼 誠(宮城県)



「平太」
小山 英隆(東京都)



「今若」
山口 義法(茨城県)



「十寸髪」
大葉 喜久哉(愛知県)



「増髪」
大友 義夫(栃木県)



「班女」
光畑 正士(神奈川県)



「狐蛇」
宮根 浅五郎(埼玉県)



「重荷悪尉」
小熊 正(東京都)



「不動」
俣木 光平(大阪府)



「増女」
橋本 幸雄(茨城県)



「瘦男」
古濱 伊津子(奈良県)



「若女」
古濱 伊津子(奈良県)



「増髪」
阪本 孝夫(大阪府)



「小面」
福田 俊文(茨城県)



「節木増」
福田 俊文(茨城県)



「増髪」
柳田 英彰(栃木県)



「黒髪」
栗原 健一(東京都)



「鷹」
藤森 信義(大阪府)



「中将」
浅野 俊樹(愛知県)



「増女」
菅原 望元(滋賀県)



「増女」
栗原 富美子(茨城県)



「中将」
原 宏臣(島根県)



「天神」
遠藤 敬一(福島県)



「福の神」
遠藤 敬一(福島県)



「増髪」
亀井 紀夫(福岡県)



「武悪」
中沢 清(長野県)

応募作品〈受付順〉



「甘柘榴悪尉」
青木 二郎(茨城県)



「泥眼」
大野 明子(愛知県)



「顰」
村瀬 龍一(大阪府)



「増髪」
井上 尊尋(福岡県)



「白式尉」
秦 英子(大阪府)



「白平太」
辻本 和仁(大阪府)



「武悪」
山縣 徹(大阪府)



「平太」
漆畑 健治(愛知県)



「顰」
梶原 仁(宮城県)



「小面」
増子 源吉(福島県)

写真／2019年度 島熊山新能「田村」より



シテ：山本 博通 撮影：工房 円 瀬野 匡史

今年も開催いたします！

令和2年

10.3^土

18:30 開演 (18:00 開場)

◆ 前売り

3,000 円 当日 3,500 円

第2回

島熊山薪能

「巻絹」

シテ 山本 博通

会場

豊中不動尊境内
【雨天時】豊中不動尊紫苑閣能舞台



撮影：工房 円 瀬野 匡史



写真／2019年度 島熊山薪能「田村」より

面：喝食 栗原富美子(第13回 島熊山能面祭 作品)

写真／2019年度 島熊山薪能「田村」より

面：天神 川上 堯由(第13回 島熊山能面祭 大槻 文蔵 賞 作品)

豊中不動尊舞台へのアクセス



- 新大阪駅・大阪駅から地下鉄「千里中央」駅下車
「千里中央」駅から、9・10・45・49系統バス
「豊中不動尊前」下車(約5分)
- 阪急「豊中」駅から、千里中央行45・47系統バス
「豊中不動尊前」下車(約20分)
- モノレール「小路」駅から、徒歩10分

※駐車スペースが限られているため、
自家用車でのご来場はご遠慮ください。

問 島熊山能面祭実行委員会
<http://www.shimakumayama.yuugen.net/>
mail mai@yuugen.net



<http://www.shimakumayama.yuugen.net>